

環境影響評価審査書に対する事業者の主な対応

001	小松製作所新研究所建設計画	
項目	審査書の指摘事項	事業者の対応
水質汚濁	<p>化学実験室から排出される排水は、廃水処理装置で処理されることになっているが、排出先である木塚川への影響も考えられるので、さらに排水処理の方法を検討すること。</p> <p>その際に、クローズドシステムの導入も可能と考えられるので、この観点からも検討すること。</p>	<p>廃水処理装置で処理した貯留槽に溜め、さらに、イオン交換樹脂等による処理をしたのち、試験機用の冷却水として再利用を図ることにより外部への排水を行わない、いわゆるクローズドシステムを取入れることとする。</p>
騒音	<p>屋外テスト場の位置の変更、効果的な防音壁の設置、防音を考慮した植栽など総合的な騒音防止のための対策を検討すること。</p>	<p>テストの方法は定置作動確認テストのみとし、走行テストは行わない計画に変更。屋外テスト場の面積を約三分の一に縮小する。テスト場の周辺には、防音壁の設置、防音植樹などの騒音防止策を実施する。</p>
気象	<p>事業計画実施後の建物等を含む稜線部の高さ、形状等は、現況の稜線の状況を極力保持する方向で造成計画の見直しを行い、造成の方法、建物の位置、方向等について具体的に検討を行うとともに、必要に応じ防風林、防風網の設置、稜線近くの谷部における構内道路の設置に伴う風速の変化などに対する対策もあわせて検討すること。</p>	<p>稜線付近の造成方法を、レベルカット工法からベンチカット工法に変更し、さらに稜線付近の切り取り高さを少なくすることにより稜線の変化を極力少なくする。</p> <p>構内道路が稜線付近を横切る箇所は、切通しとなっていたものをトンネルに変更し、かつトンネルの出入り口付近に防風林、防風網を設置する。</p> <p>建物の位置、方向、規模を変更し、北からの風の吹き抜けを少なくする。</p>
植物	<p>自然度の高い樹林地は、極力保持することが必要と考えられるので、この視点から土地利用計画の見直しを行い、また樹種、地形などを考慮した保存の方法についても検討すること。</p> <p>復元緑化に当たっては、郷土樹種を主体とした植栽を行い、将来多層林となるよう配慮することにより、より良い環境の創造と均衡のとれた環境保全林としての構成ができるようにすること。</p>	<p>スタジイ、コナラ等の成木の多い山林とその林縁部を保存すべく計画の見直しを行い、現況樹林地の改変面積を3.39haから2.51haに縮小し、その保存を図る。特に計画地南側及び東側の山稜付近の自然度の高い樹林地は極力保持する。</p> <p>切盛り法面等にはタブ、スタジイ、ヤブツバキ等の常緑広葉樹を中心に植栽し、将来多層林となるよう配慮する。</p> <p>建物、その他の施設周辺には、景観、防風等も考慮し、常緑広葉樹を主体とした郷土樹種を植栽する。</p>
その他	<p>事業予定地にある万繩の池及びこれに接続する樹林地は、周辺の自然環境との調和が図れるよう整備保存すること。</p>	<p>万繩の池及びこれに接続する樹林地は自然環境との調和を図りながら整備を行い、またこれに接する部分に森林公園を設置し、これを地域住民に開放する。</p>